

令和2年度福島県農業総合センター農業短期大学校学校関係者評価の結果（まとめ）

学校関係者評価委員の評価結果は以下のとおり

評価項目		評価（○印をご記入ください）			
		A	B	C	D
1	自己評価の実施方法は適切か （重点目標、評価項目の設定は適切か）	適切である	ほぼ適切である	やや不適切である	不適切である
	○				
【改善に向けた提言】 ・適切と考えられる。 ・次年度については、令和3年2月に策定（3月公表予定）の「農業短期大学校機能強化に関する基本構想」の強化事項を参考に重点目標と評価目標を追加することを検討願います。（例：農業法人、先輩就農者との関わりの位置づけ）					
2	取組は適切か （重点目標を受け、具体的な方策方策は適切か）	適切である	ほぼ適切である	やや不適切である	不適切である
	○				
【改善に向けた提言】 ・具体的方策及び評価指標に数値目標がかかげられている項目もあり、評価できる。未設定の項目についても可能な限り数値目標があった方がよいと思われる。 ・改善の取組がそれぞれ行われていると思いますが、「学校アンケート」前期・後期、3カ年比較などでは、一概に同一方法の意見となっていない項目があるため、その要因を分析し、必要な取組について検討されることを提案いたします。					
3	自己評価は適切か （自己評価の結果は適切か）	適切である	ほぼ適切である	やや不適切である	不適切である
	○				
【改善に向けた提言】 ・「農業高校との連携」と「高校教育に関する実態把握」は評価が低くなるが、評価だけでなくその前提となる実施内容も連携評価項目とも考えられる。 ・学校評価表でA評価からD評価まで4段階の評価がされている。（評価内容（評価数）はA-14 B-10 C-2 D-1となっている）					
4	改善策は適切か	適切である	ほぼ適切である	やや不適切である	不適切である
	○				
【改善に向けた提言】 ・「次年度の課題と改善方策」で項目により、具体性が不十分なものがある。特に自己評価が低い項目については、より具体的に改善策方法があった方法がよいと考えられる。 ・学校評価表のC評価とD評価の対応を考慮する。 ・本校と他県農業大学の取組や活用予算・規模等の状況を比較し、優良な取組は取り入れするなど、よりよい教育・研修活動となるよう期待いたします。					

【その他の意見】

- ・「自己評価」と「学校関係評価」の実施は大変意欲的な取組でP D C Aサイクルを回すことで実効性が期待できる。なお、単年度の評価だけではなく、複数年度またいだ評価（例えば、3年または5年のような）があると、中・長期的な進捗が見えてきて、より実効性が高くなるものと考えられる。
- ・評価の結果「特記すべき成果」や「特記事項」などがあってもよいと考えられる。例えば「うどんだばい」による6次化の成果なども当該担当者の評価になるばかりか当年度以降の参考になり実績が加速されると思われる。
- ・自己評価、取組、改善策は適切に行われています。
- ・管理担当と担当の委員会は具体的な方策で対応しています。
- ・これからの対応の継続が重要です。
- ・令和2年度卒業生の就農率が40%を超えられましたことは、皆様の尽力の成果と敬意を表します。
- ・令和3年2月に策定（3月公表予定）の「農業短期大学校機能強化に関する基本構想」を参考に重点目標と評価目標を追加することを検討願います（再掲）
- ・校内意見発表、卒業論文発表、第31回ヤンマー学生懸賞作文の受賞とはすばらしい成果であります。卒業論文等は県関係者をはじめ、農業法人や認定農業者等、または、（高校）学生等に広く発信する開催方法の検討を提案いたします。